

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 林業経営実態調査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 担い手企画係 電話番号：058-272-1111(内4390)

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 783 千円 (前年度予算額： 871 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	871	0	0	0	0	0	0	0	871
要求額	783	0	0	0	0	0	0	0	783
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

国の第 6 次エネルギー基本計画において、電源構成が見直され再生可能エネルギーのうちバイオマスの割合を 10 年後に倍増させる方針が打ち出されている。また、県内の木質バイオマス発電 8 施設が稼働するなど、今後、C・D 材(燃料材)の需要が増大することが予想される。

一方、資材の高騰や人口減少等の影響により、県内の住宅着工戸数は 1 万戸を割り込み、今後さらに減少することが懸念される。この様に A・B 材(建築用材・合板用材)の需要が減少する状況において、新たに C・D 材として利用可能な資源の確保が必要であり、かつ国が進める花粉症の発生源対策も同時に取り組むことが求められている。

(2) 事業内容

C・D 材の供給可能な資源量を把握するため、木材価値の低い荒廃・未利用森林(獣害被害木、気象被害木、不成績造林地等)の聞き取り調査により把握、林分等の現地調査を行う。

令和 8 年度は飛騨川流域において調査を行い、未利用資源活用の基本方針策定(調査箇所の被害損失額、燃料材として利用する場合のコスト計算、収益性が確保できる手法の提案)することで、燃料材の供給と併せて花粉症の発生源対策に繋げる。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10(一般財源)

第4期岐阜県森林づくり基本計画「災害に強い森林づくり」に資する調査のため県として負担することは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	783	予備調査、荒廃森林調査（被害）、未利用資源活用の方針策定
合計	783	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画
災害に強い森林づくり

(2) 国・他県の状況

国・他県での取組みはない。

(3) 後年度の財政負担

県内5流域を調査対象とし、令和7年度から令和11年度までの5年間の実施を想定。

(4) 事業主体及びその妥当性

県内各地にて調査を行うことが可能なネットワーク等を有しており、円滑かつ効率的な調査ができることを条件に委託先を選定する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和11年度までに県内の全5流域（長良川、飛騨川、木曽川、揖斐川、宮庄川流域）を調査対象とし、C・D材供給の流域モデル事業地の確保、試行により成果を普及する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①木質バイオマス利用量	128	197	208	250	250	77%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>木曽川流域における野生鳥獣の生息状況、植栽木の被害状況及び防除対策等の調査を行った。調査対象区域は野ウサギ及びシカの生息が主に確認でき、特にシカによる食害が多く確認された。防護柵の設置による対策を行っているが、野ウサギの進入が確認できたため、防護柵の網目の変更や忌避剤による追加の対策の必要があると考えられた。</p> <p>指標 目標： 実績：1流域 達成率：</p>
令和5年度	<p>飛騨川流域における野生鳥獣の生息状況、植栽木の被害状況及び防除対策等の調査を行った。調査対象区域はシカ及びカモシカの生息が主に確認でき、特にシカによる食害が多く確認された。防護柵の設置による対策を行っているが、シカによる柵の破損が確認できたため、防護柵の支柱の補強や忌避剤による追加の対策の必要があると考えられた。</p> <p>指標 目標： 実績：1流域 達成率：</p>
令和6年度	<p>宮庄川流域における野生鳥獣の生息状況、植栽木の被害状況及び防除対策等の調査を行った。調査対象区域はシカ及びカモシカの生息が確認され、シカによる食害が一部発生しているものの生育には支障ない程度であった。また、当該地域が積雪地で面積も広大であることから防護柵による対策よりも、散布時期を考慮した忌避剤による対策が有効と考えられる。</p> <p>指標 目標： 実績：1流域 達成率：</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)	災害に強い森林づくり及び森林の適正な管理につながるため、事業の必要性は高い。
------	--

- 3 : 期待以上の成果あり
2 : 期待どおりの成果あり
1 : 期待どおりの成果が得られていない
0 : ほとんど成果が得られていない

(評価)	今後、増えると想定される木質バイオマス燃料材の安定供給及び花粉症の発生源対策に資する基礎資料となる。
------	--

- 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)	県下全域を広く調査することが可能な団体に対して委託を行うことで効率化を図っている。
------	---

(今後の課題)

- 次世代につながる健全で豊かな森林づくりを進めていくうえでの課題を本調査により見つけ出し、今後の取組に有効に活かしていくことが必要である。

(次年度の方向性)

- 地域によって地形条件や被害状況等が異なるため、県内全域で調査を行う必要があり、次年度は調査対象地域を変更し引き続き調査を行う。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる実施する理由 や期待する効果 など	